

小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
人と動物のたんじょう / 理解シート

なぜたまごで生まれたり、赤ちゃんで生まれるものがあるの



生物が複雑で高度なつくりの体へ進化してきたように、
たまご 赤ちゃんを産むものが現れてきたのだよ。

大昔は、たまごを産む動物しかいなかった

地球に生き物らしいものが現れたのは、約 35 億年前ごろといわれています。最初は海水中にただようバクテリアのようなもので、体が半分がちぎれてふえていくような、かん単なつくりの生き物でした。

やがて、もっと高度な体のつくりの生き物が現れて、カイヤイカ、カエルなどのように、ゼリーのようなものにつつまれたたまごなどを水中に産むようになりました。でも、このたまごは、水がなくなるとひからびて死んでしまいます。

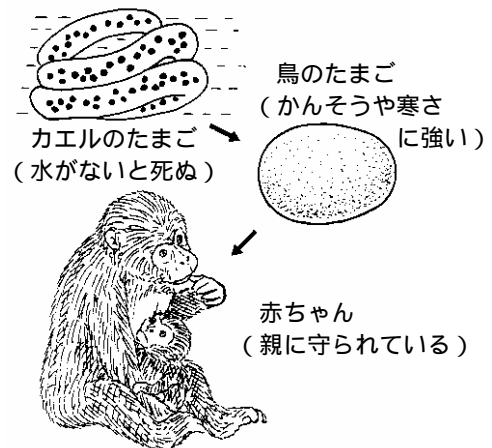
陸でくらす生き物がふえるにしたがって、ワニや鳥のなかまのように、かたいからにつつまれて、かんそうにも強いたまごを産むものが現れました。

さらに、動物が進化して、産みっぱなしのたまごではなく、赤ちゃんを産んで、
ちち乳をあたえ、世話を^{にゅうどうぶつ}して育てる、ほ^{にゅうどうぶつ}乳動物が現れたのです。

死ぬ割合が高いものほど、産むたまごや子どもの数も多くなる

たまごを産む動物の中でも、産んだままで世話をしない魚のなかまは、数万個ものたまごを産みます。けれど、鳥のように、親がふ化した後の子どもの世話を^{すつまんこ}する動物は、数個しかたまごを産みません。

魚は、たまごやふ化した子魚のときに、ほかの動物に食われて生き残る割合が少ないのです。だから、子孫を残すためには、たくさんたまごを産むようになったのです。



子孫が生き残りやすくなった